

# 自己評価報告書【教職員による自己点検 分析】

A…十分到達 B…おおむね到達 C…やや不十分 D…不十分

## 1 「知」の項目

重点目標「見方・考え方や身に付けた力を振り返り、新たな問いを見いだす子どもの育成」に努めている。

R6 A…8.0% B…92.0% C…0% D…0%

R7 A…42.1% B…50.0% C…7.1% D…0%

学校目標「よく考える子ども」に近づいている。

R6 A…0% B…100% C…0% D…0%

R7 A…31.0% B…62.1% C…6.9% D…0%

- ・ 重点目標、学校目標に対する A 評価の数値が大きく向上している。
- ・ 「せたがや探究的な学び」で求められている、探究的な学びのサイクル、特に「学んだことを振り返り新たな問いを見いだす」プロセスを充実させるために引き続き、1 単位時間における導入・発問・振り返りの工夫、ICT 機器の効果的な活用、学習意欲を高める学習過程や教材の工夫等、楽しい授業の実現に向けて、授業改善を継続していく。
- ・ 今年度の校内研究主題「自ら課題をもち、主体的に学ぶ児童の育成」で国語・算数・体育に焦点を当て取り組む中で、教職員全員が新たな問いを見いだせるような手立てを考えてきた。来年度は、「せたがや探究的な学び」を推進していくために、「共感・協働する学び」を基盤として、授業を通して児童一人一人の「探究のプロセス」を確立する。校内研究の研究主題を『学ぶことが楽しい児童の育成～わくわくする授業づくりを通して～』とし、授業改善を図る。
- ・ 自分で考えて「これを知りたい」と納得できる問いを見だし、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べ、考え、結果を共有する授業を目指す。「教師が教える」授業から「自分で考えて、『これを知りたい』と納得できる問いを見付けたり、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べたり考えたりする」授業へ教員自身の姿勢を変えることで「よく考える子ども」の育成を図る。

## 2 「徳」の項目

重点目標「互いのよさを認め合い、自他ともに尊重し合う子どもの育成」に努めている。

R6 A…39.0% B…61.0% C…0% D…0%

R7 A…69.0% B…27.6% C…3.4% D…0%

学校目標「思いやりのある子ども」に近づいている。

R6 A…28.0% B…32.0% C…0% D…0%

R7 A…44.8% B…44.8% C…10.3% D…0%

- ・ A 評価が大きく向上している要因としては、平成 30 年より研究を重ねていた東京都教育委員会人権尊重教育推進校としてのレガシーを生かした「人権の花」「人権集会」「あいさつ運動」等の取組、響きの学び舎で共通して取り組んでいる「相手を大切に作る心」「あいさつ」等、保護者・地域・学校が三位一体となって注力している成果が表れていると考えられる。
- ・ C 評価の数値が増加している要因としては、子ども同士のトラブルが発生した際に、自分たちで解決することができずに、教師が介入して、解決していかなければならない事案が増加していることが考えられる。

### 3 「体」の項目

R6 重点目標「体力を向上し、健康の保持・増進を図る子どもの育成」に努めている。

R7 重点目標「スポーツへの情意を向上し、健康の保持・増進を図る子どもの育成」に努めている。

R6 A…0% B…85.0% C…15.0% D…0%

R7 A…37.9% B…55.2% C…6.9% D…0%

学校目標「元気にやりぬく子ども」に近づいている。

R6 A…12.0% B…88.0% C…0% D…0%

R7 A…41.4% B…55.2% C…3.4% D…0%

- ・ 「体力・健康」に関わる項目について、昨年と比較すると A「十分達成」の数値が大きく向上している。また、「やや不十分」と回答している教員が若干名いる状況である。
- ・ 学校全体の取組として運動朝会における長縄・短縄への取組を行っているが、心身の健康にもつながる体力向上に向け、まずはスポーツへの情意向上や多様性への理解を図れるような授業の実践、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことのできる運動への取組、外遊びや集団遊びの奨励等、児童の日常的な運動習慣の形成を図れるようにしていく必要がある。
- ・ 休み時間に、教室内に残らず体を動かす遊びを促し、日常的に運動に親しむ機会を増やしていく。
- ・ 今年度、A の評価が大きく向上したのは、体育授業の充実を図るために校内研究で体育科を取り上げた成果と考えられる。